

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602272		
法人名	有限会社 徳栄会		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	福岡県久留米市城島町下青木1010番地2		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果確定日	平成23年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kai/gosi/p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成23年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生き」「こころに寄り添う」という施設の理念の下、スタッフ一人ひとりがご利用者の皆様を尊敬し、サービスを提供させて頂いている。また田舎の利点を活かし静かな環境の下ゆっくりと穏やかに過ごして頂いている。食材にも自家製の米、野菜を多く取り入れスタッフと一緒に調理の下こしらえ、味見など楽しくして頂いている。利用者間の会話も多く家族同様に親しみを持たれ、お互い支えあって生活されており、毎日笑いの絶えない日々を過ごされている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の重度化とともに、身体介護に重きを置かざるを得ない新規入居者もあり、どのように理念を実践するかを模索する機会になっている。入居者一人ひとりの出来ることや、自己決定を尊重した待つケアの実践や、穏やかな笑顔の声掛けで、入居者同士の支え合いを引き出している。そして入院した方へのお見舞いの寄せ書きには、「愛し、褒め、頼りにし、役割づくりしている」職員のこころ温まる言葉が綴られている。また、今年から就任した施設長は行政職員や福祉施設長などを歴任した経験を活かし、さらなる理念の具現化や地域密着型サービスとして地域交流を促進するため、職員体制の見直しや福祉機器の活用等に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／
事業所名 B棟 / こころ

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を作成し、それに基づいた介護を職員全員の理念の理解の下行っている。また理念を目立つ場所に掲示することで常に意識して業務にあたり、具体的なケアにつなげている	玄関に理念や運営方針を掲示し、日頃のケアを毎月の職員会議で話し合っている。昨今ADLすべてに介護が必要な新規入居者もあり、理念の実践を模索する機会になっている。	具体的な取り組みはすでに実践されているが、地域密着型サービスとして運営規程や重要事項説明書に「地域との交流の下」を明記し、さらなる地域交流を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。夏祭りなど地域の行事への参加も実施している。施設の行事に地域の方に来ていただき交流を深めている	地域の方々と餅つきやしめ縄づくりをしたり、子ども神輿の巡行にご祝儀をふるまったり、小学校の運動会や幼稚園のお遊戯会に出かけたりしている。来所したプラスバンドの高校生とのスナックは、入居者の特段の笑顔に溢れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の役員さんに来ていただき意見交換をしている。また福祉に関する相談を受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設の現状報告をし、家族代表、地域の役員、市の職員などから意見アドバイスを頂き、サービス向上への参考としている	運営推進会議実施要領を整備し、2ヶ月毎に適切なメンバーで会議を開催し、ホーム行事や入居者の状況、外部評価の報告・課題等が報告され、会議録が整備されている。民生委員や地域公民館館長から、福祉に関する質問を受けている。	実施要領に個人情報の取り扱いや守秘義務の明記をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に市町村担当者と連携を取り、アドバイスを頂いたり、問題発生時の素早い対応が出来るよう連携をはかりサービスの向上に努めている。生活保護受給者に関しては保護課のケースワーカーとも連携を図っている	保護課からの依頼で介護放棄のケースを受け入れ、日頃から連携している。また、居室の空き状況を地域包括支援センターに連絡している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や社内勉強会で職員全員の理解と意識付けのもと職員一人ひとりが日頃より意識し介護に当る事で、身体拘束のないサービスを行っている	毎月の職員会議で身体拘束をしない方法を検討していたり、止むを得ずベット柵やセンサーマットを使用する場合は、家族に状況を説明し了解を得ている。昨年自宅願望があり無断外出した事例があり、職員会議でユニット間の連携体制を見直している。散歩で顔みしりになり、床屋や肉屋さん等から外出傾向のある入居者について連絡をもらったこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や社内勉強会において高齢者虐待防止法の理解浸透と常日頃からの意識付を徹底し、法令を遵守したサービスを提供している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内勉強会の議題に取り上げ、職員全員が理解し具体的に必要とされる場合は話し合い、活用する事が出来るように取り組んでいる	介護扶助を受けている入居者について、保護課と連携しながら、後見制度の活用を検討予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設けて丁寧に行っている。利用料金やリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携態勢の実態などについては、特に留意し詳細な説明を実施し同意を得ようとしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に苦情相談受付箱を設けている。契約書に苦情受付窓口を明記している。毎月、介護相談員が来所され職員には直接言えない事も相談できる態勢を取っている	定期的にホーム便りを発行し、入居者の暮らしぶりを報告したり、誕生会や夏祭りに家族を招待している。これまでは、介護相談員から入居者との会話等について報告を受けていなかったが、今後は施設長が状況報告を受ける予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、定例会、幹部会を開催し職員の意見が反映しやすい雰囲気を作っている	職員会議で転倒防止策として滑り止めの靴下の使用や着がえ・臥床まで見守る等の意見があったり、要望のあったキャスター付きシャワーチェアを購入している。本人に打診後、ユニット間の異動等を検討している。定例会で研修希望を聞き、要望を出来るだけ反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に研修の機会を与えられるよう配慮している。資格取得者に対しては給与面に反映するよう努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	個々の職員が、それぞれに持つ能力を発揮できるよう考慮し採用、配置を行っている	職員採用は資格よりやる気を重視している。新規採用の場合はマンツーマンで指導しているが、就業に結びつかない場合もある。常勤職員の採用が多く、定期健康診断の支援や研修参加や資格取得のためにシフトの調整等をしている。昼休みを交互に取ったり、親睦会の開催でストレスの軽減に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常業務の中で人権教育を指導し、利用者の人権を尊重するよう努めている	職員会議で日頃の入居者の関わりについて話し合うなど、人権に関する話し合いを行っている。高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内勉強会を毎月実施。外部研修の機会があれば実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に事業所交流会に参加している。加えて久留米市福祉サービス事業者協議会グループホーム部会に加入し、研修会への参加、情報交換を行いサービスの向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が直接ご本人と会って現在の状態や不安を理解し本人との信頼関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に本人家族と面談を行い要望や不安なことを聞き取りサービスに生かしている。また家族の介護負担が軽減できるようしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人家族の意向を確認し必要なサービスを見極め提供助言を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の理念の下、日々の生活において一緒に家事や食事をする中で調理法や味付け掃除の仕方などの知識を教えていただいたりと、いろいろなことを学びながら日々喜怒哀楽を共にしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際参加して頂き、皆で楽しく過ごして頂く時間を共有することはもちろん、定期的に本人様の日々の生活の様子を連絡することで共に本人を支えていく関係を築くよう努力している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を尊重し、なじみの地域での行事への参加や家族の協力の下、お盆や正月に外出、外泊をして頂いている	馴染みのある「よど祭り」に出かけ、夜店で買い物したりしている。家族同伴で法事に出かける入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション行事等への参加を呼びかけ、利用者同士が関わりあい楽しい時間を共有できるよう配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的なかわり必要とする利用者や家族に対しては、必要により電話相談や情報提供等を実施し支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画立案時に家族利用者本人と面談を行い情報を収集し、希望等を確認し本人本位の生活が送れるよう努めている	入居者の家族構成等の生活歴や職歴をアセスメントし、記録を整備している。3ヶ月毎や状況に応じて、利用者や家族の意向、コミュニケーション、ADL、睡眠、健康状態、理解力、認知症状等を再アセスメントしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族からこれまでの生活について聞き取りし、アセスメントを作成しスタッフ全員が目を通すようしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前利用されていた施設や病院等からの情報や、入所時のアセスメントにより生活歴を把握し、情報を共有している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医からの情報をもとにサービス担当者会議を行い介護計画を作成している。担当者会議にはスタッフ全員が参加している	作成した介護計画は入居者・家族の了承を得ている。また、介護計画を居室に掲示し、家族や全職員の共有に取り組んでいる。モニタリングシートに利用者満足度やスタッフの取組み状況の評価項目を設け、課題や短期目標を評価し、介護計画を見直している。「下着は自分で洗いたい」との入居者の意向を支援する介護計画を実践している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は細かく記録されている。介護計画は定期的に話し合い、見直しをしている。情報はスタッフ全員が共有できるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、個々のニーズに合わせ援助している。ご家族の要望等も傾聴し対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方を招いてレクリエーションを行ったり消防署との共同による避難訓練を実施。また定期的な訪問相談員の受入れによって情報の共有、透明性に努めている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に連携を図り、受診等対応している。体調変化時も早急に対応できている	入居前からのかかりつけ医受診を支援したり、入居者の状況に応じた協力医療機関の往診を支援している。皮膚科・眼科・歯科等の専門医には通院介助をしている。入居者毎の医療・受診記録を整備し、随時家族に連絡し、記録を整備している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が受診、服薬状況、健康状態を把握し、介護職員に適切な受診や看護を受けられるよう指示を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会を実施。情報を取り入れている。退院後も状態報告を受け、援助指導を受けている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における施設の対応で可能な範囲を本人家族に説明し同意書を頂いている。医療機関との連携により重度の方や終末期の利用者の支援を行っている	重要事項説明書に重度化や及び看取りに関する指針を詳細に明記し、入居時に説明し同意を得ている。平成21年入居者の家族の意向や主治医との連携でホームで看取りをしている。その経験を活かし、ターミナルケアについて内部研修をしている。また、入居者の重度化に向けて看護職員の配置を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得、年二回定期的に消防訓練や応急処置の知識や技術を習得する勉強会を開催している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度全職員、利用者近隣住民の方を交えて消防署員の指導による消防避難訓練を実施している	飲料水のペットボトル、ビズケット等や毛布や紙オムツを備蓄している。火災発生時にはまず消防署と近隣への声掛けをマニュアル化している。救急蘇生法やAEDの取り扱いについて研修している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の掛け方や接し方の対応には全体会議や定例会で見直すようしている	入居者の意向を重視し、言葉をかけて確認しながら支援することや見守るケアについて職員会議で話し合っている。訪問調査の際は、ドアをノック後に居室を案内している。また、職員のゆったりとした動作や言葉かけが、いたるところで見られた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の衣服選びは利用者と一緒に組み合わせ等、話し合いながら、本人に選択して頂いている。食事に関しても、本人の好きな物や食べたい物を尋ねる等して献立を作成している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度利用者本人の希望を尋ね、利用者のペースに合わせ、意向に沿うよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は毎日髭剃りを行い、女性は洋服や装飾品を選び、整容、身だしなみの支援を行っている。また1～2ヶ月に1回美容院に訪問して貰っている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や能力に応じて、椅子に座って出来るじゃが芋の皮むき、もやしの芽取り、おしぼり作り、食器やトレイ拭き等を手伝って頂いている	外出の折の夕食では、おかわりをする入居者もあり、夕食を楽しんでいる。食後に摂取量を確認しながらどのメニューが一番美味しかったかを尋ね、リピーメニューを作成している。運営者自家製のお米や野菜がふんだんに使われ、入居者から「美味しかったよ。」と当番の職員に労いの声かけがあった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量、水分量を記録している。声掛けを行い好みの飲み物を提供している。食事が入らない方には本人の嗜好を考慮し別メニューで提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、週に一度の義歯洗浄剤を使用。歯に異常のある方には、往診により受診の支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	判りやすい様トイレの入り口には、目印を付けて迷わずに行ける様工夫している。尿意のない方には、時間を見計らい声掛け誘導している	排泄状況をチェックしている。居室からトイレまでの距離があり、ベッドの傍にポータブルトイレを設置している入居者もいる。後始末の声かけやトイレの場所の声かけなどに留意している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の水分摂取量は把握しており、水分摂取が不足しないよう支援している。健康体操、リハビリ体操を実施している。繊維質の食材を多く使用し、個人個人に応じた大きさを提供している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望される利用者には毎日入浴して頂いている。そうでない方には3日に一回のペースで入浴支援している	入浴の声かけに応じなかった入居者が他の入居者の入浴で、入浴することもあり、待つケアを実践している。3人体制の入浴支援も予測され、リフト浴を検討している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の年齢、体調などを考慮し、希望に応じて日中仮眠を取って頂いている。就寝前には足浴を行ったりして安眠しやすい状態になるよう対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時職員が付き添い、処方薬の確認を実施している。個人のファイルに処方箋をファイリングする。職員全員が情報を共有できるようにして、日々の状態観察と併せて支援している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干して頂いたり、畳んでいただいたり、料理の手伝いなど、一人ひとりの能力に応じた役割を担って頂き、張りのある生活の支援に努めている。レクリエーションではゲーム、歌などしたり、天気の良い日は散歩などして気分転換に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に利用者が買い物にいける時間を提供している。受診の帰りには自宅へ寄ったりしている。	年間行事計画が作成され、外出を楽しんでいる。一人ひとりの意向に添って、天候に合わせた近隣の散歩や、個別の意向に応じて洋服や、日用品の買い物に出かけている。入院した入居者をお見舞いに行くこともあり、昨今入院した方には職員の寄せ書きのあるお見舞いカードが作成されていた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は職員が管理を行っている。日常生活の中で買いたい物があれば職員の付き添いで買い物ができる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけたり、かかってきた電話を取り次いだりしている。年賀状を毎年出していただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節を感じられるよう飾りつけている。行事や外出時の写真を掲示するようにしている。	各ユニット毎の段差のない玄関は季節の花が生けられ、飾りが掲示されている。共用空間の一角の畳の間には、お雛様やさげもんが飾られ、華やかな季節感に溢れている。ホワイトボードにはその日のメニューが大きく記載されている。共用空間で各々お気に入りの場所で寛いでいる入居者が多い。入居者の状態に合わせてカーテンで日差しを調節したり、換気や空調管理ができるように高窓が設置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファやマッサージ器を設置している。ゆっくり利用者が談話できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物は家族の方に持ってきていただき、使われている。居室には写真やはがき、花などが飾られている	居室は、フローリングの床に大きな窓から周囲の田園が見渡せ、明るく解放的である。入居者の身体状況や暮らし方に合わせて、愛用のベッドの高さが調整され、暮らしやすく工夫している。衣類の管理等に訪問する家族もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることはなるべく本人様にして頂いているため、必要以外に物を置かず事故防止に努めている。居室には写真付き表札を掲げ混乱されない様している		